

# 地域防災の中核である消防団員の確保を目指して

栃木県危機管理防災局消防防災課

7班 コミュニティデザイン学科  
建築都市デザイン学科  
社会基盤デザイン学科  
グループ指導教員

四ツ谷真陽 柳田涼  
池田尋  
掛谷諄 伊藤匡哉  
石井大一郎先生



## 01背景

・全国及び栃木県内の消防団員数は減少傾向  
・災害時のニーズの把握や避難所の運営などで女性の視点が必要とされている

しかし栃木県は全消防団員数のうち女性消防団員の割合が**2%** (全国41位) という状況。  
(R8国の目標5%)

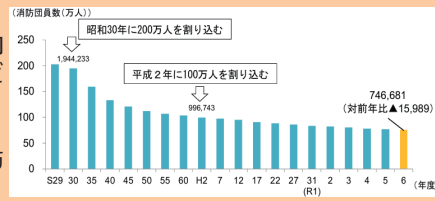


図1 総務省消防庁資料より

## 02目的

- ・地域密着性、要員動員力、即時対応力という特性を持つ消防団の増加によって地域防災力を高め住民の安全確保に資する
- ・消防団員(主に女性消防団員)の増加を目指す

## 03調査の流れ

### ①事前調査

現状把握のための聞き取り調査

### ②本調査

女性消防団員と一般市民を対象としたアンケート調査

### ③提案と実践

- ①広告の改善
- ②イベント開催の提案

### ④パートナーとの振り返り

アンケート結果のフィードバック



写真1 令和6年度県が導入したVR防災体験車

## 04調査方法

### ○イベント参加及び女性消防団員への聞き取り調査

目的：現役女性消防団員が活動についてどう思っているのかを知る  
結果：女性部の存在など想像と異なる実態が明らかになった

一般市民はこれらについての程度認知度があるのかという疑問が発生した

### ○アンケート調査

- ①女性消防団員 307名 (全国女性消防団活性化とちぎ大会@ライトキューブ)
- ②大学生 82名 (宇都宮大学地域デザイン科学部防災マネジメントI)
- ③消防団一日参加体験の参加者 (高校生等) 27名
- ④一般市民 24名 (県内各所で開催されたイベント)

目的：女性消防団員と一般市民の活動に対する認知度を比較する  
→より効果的な勧誘方法の模索



写真2 女性団員の活動の様子



写真3 インタビューの様子

## TOPIC

### 全国女性消防団員活性化とちぎ大会

年に一度全国の女性消防団員が一堂に会し交流することで、団員の活動を一層活性化させ、地域防災力の強化に資することが目的。令和6年度は栃木県が開催地であったため、大会当日に大規模なアンケート調査を行った。



写真4 活性化大会の様子

## 05分析と提案・実践

### 提案① 広報の必要性

・女性消防団員に対する地域住民の認知度は現役女性消防団員が思っているよりもさらに低い(図2)  
・各年代とも一定の割合で広告がきっかけで入団したと答えた人がいた

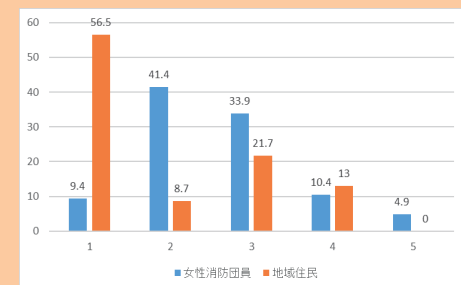


図2 女性団員と地域住民の活動に対する認知度の違い

実践：小学生を対象としたポスターの作成 (VR車出展ブースにて掲示する)

提案：県の消防団HPのリニューアル

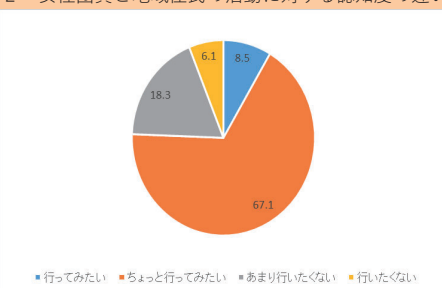


図3 大学生の消防団活動に対する興味

### 提案② 体験イベントの開催

・大学生の**7割超**が活動に参加したいまたはちょっと参加したいと回答(図3)  
・消防団一日参加体験に参加した高校生等の**ほぼ全員**が活動に参加したいと回答

実践：消防団一日参加体験に参加したメンバーと地域パートナーによる意見交換会の実施

提案：活動に参加してみたい学生に向けた参加しやすいイベントの企画 (年数回実施)

### 全国の消防団へのフィードバック

活性化大会にて回収したアンケート結果を各都道府県の消防団担当課に送付した。栃木県に限らず全国で消防団の活動が活発になることを願う。